



福井大学教育学部
附属義務教育学校

No.04

令和6年12月20日

学校だより

令和6年度社会創生プロジェクトの取組

前期課程 副校長 寺前 公恵

本校の社会創生プロジェクト（以下:社創）とは、総合的な学習の時間や生活科と国語科をはじめ、他の教科等と関連させた本校独自の学習であり、仲間と共に協働で課題に向き合う探究学習です。

これからの社会においては、予測困難な時代において、子供たち一人一人が、自分のよさや可能性を発揮し、多様な人々と協働しながら、未来の創り手となっていかなければなりません。PISA2022の結果（高校生）によると、日本は、数学的・科学的リテラシーや読解力が世界でもトップクラスである一方で、「再びコロナの時のように、災害等で一斉休業になった場合、自分たちで考えて学習していくことができるか」という問いに「できる」と回答している生徒は、世界的に見ても、非常に低いという結果が出ています。つまり「自律的な活動力」や「人間関係形成力」の能力が求められています。そんな力を持った子供たちを育むため、本校では、目指す子供像を「自律・協働・貢献」という言葉で表し、学校教育全体でこの力の醸成に取り組んでいます。特に社創の学びの中で育むことを目指して、子供たちと共に活動を進めています。

本号では、現在子供たちが取り組んでいる活動についてご紹介します。

[1年生] 『 しぜん わくわく だいぼうけん 』

入学して間もなく、子供たちは学校探検を始めました。学校にある面白いもの、不思議なもの、楽しそうな場所をたくさん見つけながら、クラスや学年の友達、前期課程や後期課程のお兄さん、お姉さん、先生方とつながっていきました。そして、一番身近なお兄さんとお姉さんの2年生から「種」のプレゼントをもらいました。「大きく育ててね」と願いを込めて毎日水やりを頑張り、観察をしていく中で、たくさんの感動や不思議に出会っていました。時を同じくして、春や夏に子供たちは自然とたくさん関わりました。それは今もなお続いています。虫、石、木、花、木の実…季節の移ろいとともにより生き物や自然が魅せてくれる変化に子供たちの新発見は増えています。それぞれが見つけた感動や面白いことを、今度は、来年度入学してくる1年生に伝え、つながっていきたいと思います。「冬はどうやってすごしているの?」「冬にたまごってあるの?」と子供たちの中には疑問がいっぱいです。来年の春まで自然を味わい続けていきます。



[2年生] 『 ぼく・わたしの「すき」をみんなに広げよう 』

好奇心旺盛な子供たちは、自然、野菜、しかけのある楽しいおもちゃと、興味のあることにチャレンジしながら、自分たちの思いの実現に向けて活動しています。「育てた野菜を給食に出したい」という思いから始まった野菜づくりでは、病気や虫、鳥などの困難に立ち向かいながら、野菜を育てていきます。収穫量を見てみると「給食に出す」というプロジェクトを成功させる難しさを実感します

が、その中で確かな達成感も感じていました。第2弾の「ごみが大変身！わくわくおもちゃづくり」では、『しかけ』と『リサイクル』をキーワードにして様々なおもちゃを作っています。1年生での経験を生かして、より複雑なコースターを作ったり、輪ゴムの力を利用した射的を作ったりするなど、一人一人の「すき」が込められたおもちゃが作られています。プロジェクトが進むにつれて、

「自分が楽しい」という思いから「だれかも楽しませたい」という思いに変化していきます。いろいろな学年との交流を計画し、自分たちの「すき」を広げる活動を続けていきます。



【3年生】『 自然とつながって笑顔になる 』

自然とつながって、みんなの笑顔をつくろうと活動を始めた子供たち。自然を楽しむイベントをやってみることにしました。7つのグループに分かれて出し物を考えました。野菜を育てたりプラネタリウムをつくったりと、様々な企画を進めていきました。しかし、あまりのやることの多さと大変さに、とてもイベントに間に合いそうにありません。それぞれが様々な課題に直面しながらもなんとか準備を進め、「自然と笑顔！ハッピーイベント」を開催することができました。校内でのプレイベントと保護者を招いての本番では、予想を上回る人出に戸惑いながらも、自分たちが準備してきた出し物をやりきることができました。保護者の方々との語り合いや省察をする中で見えてきたのは、「私たちがもっと本当の自然と触れ合いたい。自然の良さを見つけない」という思いでした。身近な自然を見つめ直し、季節によって表情を変える自然に目を向け始めた子供たち。「もっと自然と親しみ笑顔をつくっていききたい。それをみんなに伝えていくにはどうしたらいいだろう」子供たちの探究は続きます。



【4年生】『 地域の人となかよくなろう！スマイルエクササイズプロジェクト 』

地域の人たちとなかよくなるためにすることを考える中で、まず「自分たちが動いてみる」ことにした4年生。真剣にやってみたラジオ体操をきっかけに、地域の高齢者に向けた運動づくりに取り組んでいます。実際に明新コミセンの自主グループの活動を見学し、自分たちの運動を体験していただくことで、自分たちの考えた運動が、本当に高齢者を想定したものかを確認してきました。時には意見が衝突したり活動が停滞したりしましたが、相手意識を忘れずに、日々の活動を省察しながら運動づくりを進めています。子供たちは、今つくっている運動を地域の人と楽しむだけでなく、自分たちの学びを地域の人に発信し、4年生も地域の人から自分たちの知らないことを学んでいきます。毎時間の社創の時間には、ドラマがあります。一喜一憂を繰り返すドラマの中で、4年生一人一人が自分事として運動づくりに取り組んでいます。



【5年生】『 自然と共に生きるとはどういうことだろうか 』

第5学年の夏。社創の主題が「自然と共に生きるとはどういうことだろうか」に決まりました。この主題が決まるまでの道のりは長く、自分たちが社創で探究したいこと、日頃から疑問に思っていることを一人一人から集め、仲間の願いを尊重しながら仲間と共に決められました。その後、5年生の子供たちは、探究したいテーマごとにグループは分かれて探究を始めました。そのグループとは「自然と運動」「水」「災害」「動物」「山」「ゴミ問題」「THE 食」「農業」「カタクリファンクラブ」

「イネ科」「くらし」です。各グループで探究を進めていたある日、「山」チームの提案で主題に迫るため、11月に5年生全員で文殊山登山を行うことになりました。登山当日は、道の途中に自然の美しさに感動しながらも、自然の厳しさに登頂をあきらめそうになりました。しかし、そんな苦難を乗り越え、子供たちは全員で山頂である大文殊まで登ることができました。展望台や大文殊から福井市の様子を見たこと、つらさを感じながらも登りきったこと、自分たちを囲んでいた木々や草花などの自然から何かを感じたことで、これからより一層、主題に向けて経験や感情が入り混じった探究が進んでいきます。



〔6年生〕『 みんなの笑顔のもとってなんだろう 』

5年生の始めに、「6年生になったら、みんなの笑顔を実現することを目標にしよう！」という思いを共有しました。その土台作りとして、これから関わる機会が増えるであろう外国の方を対象に、笑顔のもとを探った5年時。その集大成として7月に「スマイルフェス in Fuzoku」を開催し、本校に70名程の外国の方をお招きしたイベントを行いました。5チーム13ブースに分かれて、それぞれが探究してきた外国の方の笑顔のための活動を実践しました。2度のリハーサルから見えた課題を解決し、フェスの後は、「外国の方の笑顔のもととは、私たち周りの人が笑顔になることなのか」と結論付けていました。そこに至るまでには、チーム内での合意形成、外部講師からのアドバイスなど、他者との関わりが不可欠でした。このフェスを終えた6年生。残り少ない時間の中で、自分たちにしかできないみんなの笑顔の実現を探っています。「これまでの学びを発信しようか」「今まで関わってきた人にもう一度会いたい」「みんなが楽しめる何かを作りたい」などの思いを、これからどのようにつないでいくのか、まだここから始まります。



〔7年生〕 学年目標 【 色蝶 】

4月から7月にかけて、学年目標を決める中で、最初は思いついた言葉を並べただけの言葉遊びだったものが、そこから学年目標の基準、価値、理想など少しずつ段階を踏んでいきました。そして、108人のそれぞれの「想い」を言葉で表し、全員で決めたのが「色蝶」という学年目標です。9月の学校祭では、それまでの過程で得た学び「情報共有」「計画性」「建設的な意見」の大切さを劇で伝えました。また、学年プロジェクトでは先輩たちとのラウンドテーブルを開き「チャレンジしてみたいこと」について意見を交わしたり、自分たちが「やってみたいこと」を出し合い、全体討論で魅力を伝えあったりするなど活動に変化を持たせながら議論を進めています。これからは学年プロジェクトが決まり、それぞれの探究活動が始まる予定です。



〔8年生〕『 観ツナプロジェクト 』

「観光」という大きなテーマのもと、「食」「アート」「スポーツ」「プログラミング」などそれぞれが興味をもった分野に分かれ、それぞれの視点から「観光とは何か」「自分達の部門と観光とはどのように繋がっているのか」を考えながら探究活動を行っています。文化祭では、保護者の方や前期児童を対象に、これまで学んだことを発信しました。スライドで自分たちの学びをまとめて発表



したり、ブースを設けて実際に活動を体験したりしてもらうなど、外部から評価をもらうことで、改めて自分たちの活動の価値づけをすることができました。文化祭後には、今後の「観光」に対する新しい視点や活動の切り口を得るため、コートヤード・バイ・マリオット福井ホテルの総支配人をお招きしました。経営を通じた「観光」への取り組み方や考え方をお聞きしたことで、新たな発想が生まれた生徒も多くいたようです。現在はそれぞれの活動を進めながら、修学旅行の準備もしています。自分たちの学びを、今度は国内外から多くの観光客が集まる東京で表現する予定です。

〔9年生〕『波紋』

8年生の3月に修学旅行先で開催した「波紋フェス in Tokyo」。それまでの歩みを省察するところから9年生は始まりました。生徒からは「波紋とは、関わった人の中にある気づきである」「抽象的な社創テーマだったからこそ、『これも波紋だ!』と、どんどん意味づけていくことができた」「自分の中にも仲間からの波紋が広がり、行動が変わっていった」などの声が聞こえてきました。その後、附属の伝統である「学級演劇」に取り組み、観客へ波紋を広げようと奮闘しました。脚本の練り直しや背景幕、大小道具製作において、多くの悩みや仲間との衝突を経験しながら、本番直前まで細部にこだわり続けました。「あんなにクラスの一体感を感じたことはない」と思えるほど濃密な学級演劇を終え、9年生として卒業までにどうあるべきかを今考えています。「本当に波紋は広がったのか?」「これまでの歩みを振り返り、確かめたい」「蓄積された力を発揮する実践的な場をつくりたい」…そして、それらを目指して「最後にシン・フェスをやりたい」など、集大成に向けて進んでいます。



9月に開催された「学校説明会」の際、6年生の児童が保護者に向けたプレゼンテーションの中で語ったことの一部をご紹介します。

○「附属の学びって何だろう」と考えてみると「自分たちで考えられるところ」です。

○先生たちは私たちの相談にはのってくれますが、全て私たちに任せられます。でも、そうすることで、一人一人の力が鍛えられたり、みんなで協力して創り上げたりすることができます。

笑顔で伝える6年生を見て、社創や教科が充実した活動であったからこそその言葉だと感じました。

また、12月4日には、教員が定期的に行っている放課後の研究会に後期課程の生徒が参加し、小グループに分かれて社創について語り合うという時間をもちました。あるグループでは、「心が動いたとき」と、生徒からの要望で「ファシリテーターの秘訣」について語られていました。

○心が動いたのは、学校の外に輪が広がったとき。福井県の『保護猫』の団体と活動できた。初めて、学校の小さなコミュニティから外に出たことで、社会に貢献できていると思った。

○ファシリテーターの極意は、みんなが興味を持つこと

○自分の意見を言うとき、人の意見を否定しないといけないことがある。

○否定するのではなく「こっちの方がよくない?」ってポジティブに言うといい。

○探究は「楽しい」が大事

○「こだわり」とか「好きなこと」の探究で、その原点が何かを思い出してみたら、小さい

ときの経験が社創でやってきたことにつながったと思った。自分の思いを大切にすることを、人生の中でもやっていきたい。



9年生が7・8年生に優しく伝えているのが印象的でした。生徒たちは、社会とのつながりに喜びを感じ、ファシリテートの難しさに悩みながらも、仲間と考えながら一步一步進もうとしています。

冒頭で述べた、社会の変化に対応できる自律的な学びのプロセスが、これらの児童生徒の言葉からも、見られます。現に、本校の卒業生の中には、「附属での学びが楽しかった」と言っている子が多くいると聞いていますので、今後、児童生徒が、高校、あるいは社会に出たときに、「附属での、あのときの学びが、今の自分の原点!」と言ってくれることもあるでしょう。保護者の皆様には、これからも、子供たちの学びを温かく見守っていただきますよう、どうぞよろしく願いいたします。